

研究タイトル:

地域の歴史的建造物をまちづくり拠点として再生する



氏名:	八木 雅夫 / YAGI Masao	E-mail:	yagi@akashi.ac.jp
職名:	教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本建築学会, 日本都市計画学会		
キーワード:	歴史的建造物, 保存, 活用, 住民ワークショップ, ヘリテージマネジメント		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・国登録文化財登録申請のための調査、所見作成 ・歴史的建造物の保存・活用計画の立案 ・歴史的建造物の保存・活用のための制度の調査と摘要調整 		

研究内容:

概要 地域に残る歴史的建造物は、歴史文化をものがたる貴重な遺産であるが、維持管理が放置されていることも多く、継承に関しても常に危機的な状況にある。近年、歴史的建造物の活用を地域住民が支える環境が整うと、保存・再生が実現する可能性も高まっており、各地でまちづくり拠点として機能する事例が誕生しつつある。こうした動きやプロセスを保存修景計画の専門的立場から支援している。

特徴 歴史まちづくり新法が昨年誕生するなど、地域の歴史文化の大切さと、環境的な負荷を可能な限り抑制したストックを活用したまちづくりの大切さが改めて認識されつつある。「ほりおこし、みつめなおし、つくろい、いかし、つなぐ」で構成されるヘリテージマネジメントの五つのプロセスごとに、保存再生手法の充実や人材育成が必要になっている。こうした課題解決のため、地域住民や自治体関係者とともにワークショップを開催しながら議論し、歴史的建造物をまちづくり拠点としてよみがえらせ、未来へ継承するための取り組みを実践している。これまでの成果として、写真で示したような事例が誕生している。竣工後も単なる資料展示施設ではなく、地域の活性化のための多様な活動が企画され、試みられている。

応用 自治体が公共事業として取り組む恵まれた事例以外に、近年は民間の動きも活発化してきている。伝統的な港町である高砂市高砂町では、個人所有の土蔵が修理後、ギャラリーやコンサート会場に活用され、地域の文化的拠点として、にぎわいづくりに貢献している。

関連著書

八木雅夫 2006年4月 「町家再生の実際と課題」 (大河直躬・三船康道 編 『歴史的遺産の保存・活用とまちづくり 改訂版』 所収) 学芸出版社 pp. 186-195



写真1 たつ市の市立室津海駅館



写真2 たつ市の市立武家屋敷資料館



写真3 生野まちづくり工房

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	